

平成 30 年度第 2 回鏡ヶ池会役員会議事録(案)

日 時：平成 30 年 10 月 13 日（土） 15:00～17:00

場 所：名古屋大学東山キャンパス 工学研究科 8 号館 210 号室（土木工学専攻大会議室）

出席者：伊藤(11 期・会長)，桑田(東京支部長)，仙田(関西支部長)，趙(留学生担当)，山本(会計担当)，池田(1 期)，高瀬(2 期)，南川(3 期)，遠山(5 期・代理山田)，谷(6 期・代理渡辺)，加藤(7 期)，寺島(8 期)，河邑(9 期)，田中(13 期)，向井(15 期)，大東(16 期・代理森川)，織田(17 期)，水谷(19 期)，伊東(20 期・代理片山)，後藤(21 期)，中野(24 期)，野田(25 期)，石川(27 期)，川崎(29 期)，萩野(30 期)，石川(31 期)，水野(32 期)，香川(33 期)，三輪(34 期)，田代(35 期・幹事長)，中村(39 期・会計)，渡邊(40 期)，吉川(46 期・会計)，根橋(53 期)，朝隈(54 期)，大橋(54 期) 出席者数 36 名

報 告

1. 総会報告（資料 30-2-2） （田代）
 - ・ 6 月 8 日実施の第 28 回総会について，70 名が参加して開催された旨，紹介があった。

2. 会計報告（資料 30-2-3,4） （山本・代理中村友）
 - ・ 会計の内訳，概要に関する報告があり，総会懇親会補助，学生支援，ホームページ関連費，会合費，旅費，会費徴収関連手数料，アルバイト代，消耗品・設備備品費および運営費，慶弔費などの用途について説明があった。
 - ・ 今年度までの納入状況を踏まえ，5 期生の完納者がプレミアム会員となる予定である。
 - ・ 全体の会費納入率は 43.9%（前年 48.3%）である。
 - ・ 会費の自動引落は，12-1 月にかけて実施される見込みである旨，周知があった。

3. 後援基金報告（資料 30-2-5） （三輪）
 - ・ 平成 30 年度上半期の会計報告がなされた。

4. 支部活動報告
 - 1) 東京支部（資料 30-2-6） （桑田）
 - ・ 東京支部の執行部について，大手ゼネコン各社による輪番制で対応しており，今年度は大成建設（次年度は清水建設）が担当している旨，説明があった。
 - ・ 8 月 29 日に開催された幹事会において，前年度の活動が報告され，今年度の活動計画について提案があり，特に，後記する支部総会への参加を促した旨，報告があった。
 - ・ 例年，主婦会館（四ッ谷）で実施の支部総会について，11 月 16 日に予定している旨，式次第（案）とともに紹介があった。教室から，伊藤名誉教授（11 期・会長），吉川高広助教（46 期・会計），田代特任教授（35 期・幹事長）が参加見込み。120 名の参加を目標。

- 2) 関西支部 (資料 30-2-7) (仙田)
- ・ 平成 30 年度前半期の活動が報告されるとともに、同後半期の活動予定が紹介された。関西支部バリバリ会 (若手懇親会)、関西支部大会、関西銀シャチ会の報告があった。
 - ・ 関西支部大会は、教室からの伊藤名誉教授 (11 期・会長)、酒井助教 (45 期・名簿・web)、田代特任教授 (35 期・幹事長) を含む 19 名が参加し盛況であったとの報告があった。
 - ・ 今後の会の活性化のため、所属会員数の多い JR 西日本、関西電力、川崎重工などを幹事会社とする運営方針案について紹介があった。
 - ・ 現在の支援金額 (15 万円) では会の運営が困難である旨、陳情があったため、次回役員会にて会計状況を開示の上、対応を検討することとなった (10/23: 仙田支部長からメールにて、教室から出席する教員の交通費を本部負担とすることで赤字解消が可能である旨、補足有)。
5. 教室近況報告 (資料 30-2-8) (中村光・代理田代)
- ・ 8 月から未来材料・システム研究所システム創成部門に、笠井拓哉氏が助教として着任した旨、紹介があった。
 - ・ 平成 30 年度より、水谷法美教授 (19 期) が工学研究科長に就任した旨、紹介があった。
6. 学生会活動報告 (資料 30-2-9) (中川・代理根橋)
- ・ 平成 29 年度前期の活動として、名大祭土木展についての報告があった。なお、例年実施の研究室対抗ソフトボール大会については、9 月 30 日に予定していたが、台風接近により中止された。
 - ・ 後期の活動として、土木系懇親会を 10 月 17 日、土木系運動会を 11 月下旬 (後日、11 月 24 日と決定) に行う旨、紹介があった。3 月 25 日の卒業式後には、卒業記念パーティー (謝恩会) を開催し、卒業アルバムについては、今年も制作する予定である。
 - ・ 平成 30 年度前期の会計報告がなされ、併せて同後期における予算使途が紹介された。
7. 留学生関連活動報告 (資料 30-2-10) (趙)
- ・ 平成 29 年度発刊の「しゃち」58 号の内容に基づき、Alumni Newsletter Issue No.7 を発刊し、9 月に 302 名の卒業生・在学生にメール配信した旨、使用経費とともに紹介があった。
 - ・ Tea Chat Party (6 月 27 日)、Farewell Party (9 月 27 日) の活動・会計報告があり、それぞれ 90 名 (学生 68 名)、119 名 (学生 88 名) と多数の参加者を集め、盛況であった旨、紹介があった。
8. 女子の会活動報告 (資料なし) (井料・代理田代)
- ・ 平成 30 年度はまだ開催していないが、子育てをしながら学んでいる留学生を招き、ワークライフバランスについて考える機会として企画している旨、紹介があった。
9. 名古屋大学特定基金ご支援のお願い (別紙) (田代・水谷)
- ・ 名古屋大学基金特定基金事業の現状について紹介があり、特に土木系教室が関わる「工学

部・工学研究科支援事業(NUDF-e)」,ならびに,「巨大災害から次世代を守る減災館支援事業」について概要が説明され,会員諸氏への協力要請について依頼があった。後日,メール配信による紹介がある。

10. ホームカミングデイ開催案内(資料 30-2-11) (田代)

- ・ 10月20日に実施予定の,「第14回名古屋大学ホームカミングデイ」について,“社会の中の大学”をテーマとして実施される旨,資料を用いて紹介があった。

11. その他

- ・ 11月17日に土木学会中部支部80周年記念講演@名古屋市中小企業振興会館(以下のHP参照)にて,森川高行教授が「自動運転技術がもたらす地域社会のイノベーション」と題する記念講演を行う旨,紹介があった。

行事HP: <https://jsce-chubu.jp/%E9%96%8B%E5%82%AC%E4%BA%88%E5%91%8A/181117>

- ・ 同期会の報告について:
9期が7月1~2日に45年会を開催したとの報告があった(しゃちNo.58に投稿予定).
19期が12月1~2日に35年会を開催予定との報告があった(しゃちNo.59に投稿予定).
24期が11月10日に30年会を開催予定との報告があった(しゃちNo.59に投稿予定).
32期から,20年会を開催しない予定との報告があった。

議 事

1. 役員・幹事の変更(資料 30-2-0) (田代)

- ・ 6期幹事が谷氏から渡辺氏,20期幹事が伊東氏から片山氏,42期幹事が野田氏から宇佐美氏,47期幹事が青山氏から柿元氏,48期幹事が藤田氏から根笹氏に交代となる案が紹介され,審議の結果,これが承認された。
- ・ 平成30年度から,過去2年間の役員会に出席の無い期には,事務局から幹事の交代を促す連絡を行う方針が説明された。上記交代はその調整の一環。

2. 平成30年度第1回鏡ヶ池会役員会議事録(案)(資料 30-2-1) (田代)

- ・ 議事録(案)が承認された。

3. 鏡ヶ池会名簿No.54編集経過報告と今後の予定(資料 30-2-12) (判治・代理田代)

- ・ 8月から進めてきた名簿情報の修正について,各期幹事からのデータ提出状況が紹介された。例年に比べて多くの期から協力いただいている。
- ・ 名簿の更新に関し,できる限り,各期幹事でまとめて報告してほしいとの要請があった。
- ・ 10月10日に各期幹事に初稿確認・修正依頼メールを配信した旨,報告があった(本日,校正用抜刷りを各期幹事に配布)。10月24日までの修正内容は名簿に反映する。
- ・ 11月上旬には最終原稿を作成し,12月上旬には納品・発送する予定である旨,紹介があった。
- ・ 実質的に同期生として活動している卒業生について,卒業年次に囚われず当該期の名簿

に記載して欲しいとする要望があり、協議したが結論は得られなかったため、メール審議などを含めて継続審議することとなった。本件については、後日のメール審議（11月5-26日）の結果、見合わせる事となった。なお、議案は以下の通り：「名大土木系教室を卒業・修了し、既に鏡ヶ池会会員である同窓生（本人）が、卒業・修了年次（「期」）以外の「期」において、実質的に同期生として活動している場合、当該期、および、本人の希望があれば、卒業年次に囚われず当該期の名簿に追記できる」。

- ・ 編集作業の一部外注については、継続して検討していくこととなった。

4. 会員名簿の冊子体販売について（資料 30-2-13）（判治・代理田代）

- ・ 昨年度名簿 No.53 において試行した冊子体名簿の印刷・販売について、今年度も継続実施する案が提示され（作成費用は約 20 万円）、審議の結果、これが承認された。
- ・ 発行部数は、昨年度の販売実績（税・送料込 3,400 円×10 名）と配布数（名誉教授 16 名、教室事務室 2 部、主任・主任補佐各 1 部他）を踏まえ、同価格にて 40 部作成することとなった。余剰分が発生した場合、事務局で買い取ったうえで教室内に配布する。

5. 「しゃち」No.59 編集方針（資料 30-2-14）（山田・代理田代）

- ・ 「伊藤義人先生退職記念」を特集とするなど、目次案が示され、承認された。
- ・ 「銀しゃち」が休刊中であることに鑑み、前号に引き続き、編集委員会企画分以外にも広く投稿原稿を受け入れる方針である旨、確認された。
- ・ 鏡ヶ池会ウェブサイトから参照可能な、しゃち・バックナンバーについての画質向上を検討して欲しい旨、要望があり、検討することとなった。

6. 総会（・役員会）の運営について（資料無し）（田代）

- ・ 実施時期を早める方針の元、平成 27～29 年度は 7 月に開催されたのに対し、平成 30 年度は時期を早めて 6 月に実施したことが紹介された。県や市では、議会対応があるため、6 月の開催は動員する上で困難が伴う懸念が示された。
- ・ 総会参加者数が今年度総会は 70 名と例年に比して 20 名（20%）程度少なくなったことを受け、参加者を増やし活性化させていくためのアイデアを募って議論が行われた。費用が掛かってもインパクトのある企画（著名人の講演など）を含める、各期幹事への働きかけを強めて動員いただく（併せて同期会を開催いただく）、（これまでの県・市に加えて）新たに幹事会社を加える、などの案が出された。
- ・ 次年度総会は、大学が幹事のため、昨年度に引き続いて名大内で開催することを第一候補として調整することとなった。

7. その他

- ・ 卒業生支援：昨年度に導入した「会員支援制度」について、これまでの活用は同期開催支援事業 1 件（41～44 期）に留まっている旨、紹介があった。今後、メールなどでリマインドしながら周知を図っていくことに関し、幹事長から協力要請があった。

以上